

富士河口湖町 教育センターだより

平成 22 年 11 月 2 日 

深まる秋

夜空を見上げていると、欠けた月が少しずつふっくらして、いつしかまた少しずつ欠けています。日々、同じ月はないのですね。幽玄の月を愛で、少しだけ、心が浄化していくように感じます。自然が私達に与えてくれる癒しのひとときです。

いろいろな学校に行くと、教室の前面に「まちがってもいいんだよ」・・・などの文言が掲示されているのが目にとまります。子どもは間違いから、失敗から学んでいくものです。しかし、同じ間違いの繰り返しでは進歩がありません。遠い昔の人たちのように、間違いにも「同じ」は避ける努力が必要です。ノーベル賞をとった人たちも、間違いを、進化させながら研究を繰り返してきたのだと思います。かなりこじつけになってしまいましたが、月のように、満ちたり欠けたり、私達人間も、うまくいったり失敗したり、その時々によって、違います。失敗のほうが多いのかもしれませんが。子ども達に、失敗を次の掛け橋にしていくことを、大人は伝えていく教える義務があるように思いました。

僕達、私達、みんな一日大工さん

大石小学校3年生がセンターのプログラムを利用して図工の授業を行いました。「野鳥の森公園」の木作業場で、それぞれが腕をふるいました。慣れない手つきながらも、時間がたつにつれて、道具の使い方が上手になるのが分かりました。大人では考えられない柔らかな発想で、素敵な作品が次々に完成しました。まだ、乾いていない作品を大事そうにバスに運んでいる姿に、「学校に戻るまで、そのままでいてね。」と願わずにはいられませんでした。

川の学習

- ★川はとても危険だとわかりました。
- ★川があんなにも楽しいとは思いませんでした。
- ★流れの速い川に、もし人が落ちてても、重くて助けられないと思いました。
- ★上流の流れが思ったより速くて、バケツも曲がったのでびっくりしました。

切ってトントン

- ★のこぎりを使うとき、最初の注意を思い出しながらやった。
- ★のこぎりで木の板を切るとき、「角度がうまい。」と言われてうれしかったです。
- ★違う学校の先生とも話ができて、よかったです。



子ども達の素直な思いに触れることができた、数々の体験学習でした。時間がない中で、担当学年の先生方と特別研究委員の東先生、小山先生、そして、センターが一丸になって作り上げたプログラムでした。これからもより充実させていきたいと思ひます。ご協力ありがとうございました。